

鶴岡市立温海中学校 グランドデザイン2020

学校教育目標 自ら学び 自ら鍛える 心豊かな温中生

温中が目指す学び ⇨ 将来につながる学び

○学校教育目標を具現化する3つのキーワードの意味

- 1. **自ら学ぶ力** ⇨ 知りたいという **探究心** 他者と**協力して解決する力**
- 2. **自ら鍛える力** ⇨ 困難に負けない **たくましさ** 失敗を恐れない**勇気**
- 3. **豊かな心** ⇨ 他を思いやる **温かな心** 自分の考えを**表現する力**

豊かな人間性

豊かな心

健康・体力

自ら鍛える

- ・「特別な教科道徳」の授業に重点をおいた、学校全体での道徳教育の推進し、他人を傷つけない、いじめない、いけなことはいけないと判断できる力を育成する。
- ・できるだけ大人の力を借りない、生徒主体の活動を中心に据えた授業や行事などを通し、より良い人間関係づくりを育成する。
- ・自分で決め、計画し、実行する力を育成する。
- ・『学び合い』を通し、主体的な力や表現力を育成する。

- ・校内駅伝大会、部活動等を通し困難や失敗に立ち向かう気力や体力を育成する。
- ・学び合いを中心に運動量を十分に確保した教科体育指導の充実。
- ・保健指導や思春期講話などを通し、生命への畏敬の念や、自己の生活習慣などの見直しなどを実践する力を育成する。

資質能力の育成

何ができるようになるか

自ら学ぶ

何が身に付いたか

<自分の考えを表現する力を育成する>

- ・AL型の授業を推進する事により、他者とのより良い人間関係づくりのスキルを身につけることができるようになる。
- ・テーマに基づいた多様な話し合い活動の場で、自己の考えをまとめ、表現することができるようになる。

<主体的な学びの習慣が身につく>

- ・自ら進んで調べてみようという探究心が身につく。
- ・自分の考えだけでなく、他者の考えも聞き入れながら柔軟に協働的に課題解決を図る力が身につく。
- ・計画したことが実行できたか振り返り、次の目標を設定する力が身につく。

生徒の実態

主体的に取り組む生徒がいる中、集団の中で関われない生徒や、コミュニケーションが上手くとれない生徒もいる。

生徒の発達をどのように支援するのか

- ・スクールカウンセラーとの連携
- ・主任会での情報の共有を中核とした校内の支援体制の構築。

目指す生徒の姿

互いの良さを認め合い、主体的に学び合う生徒を育成する。

何を学ぶか

○教育課程の編成

- ・『学び合い』を中核としたAL型授業を推進し、授業を通してより良い人間関係づくり、コミュニケーション力を育成する。
- ・ダイアリー形式の手帳を活用したスケジュール管理能力を身につける。
- ・一律一斉的な家庭学習ではなく、個々に応じた家庭学習を推進することで、やらされている感からの脱却を図り、生徒が自ら目標を持って行うことで、主体的な学びの向上を図る。

どのように学ぶか

○教育課程の実施

- ・温中真心宣言の実践。
- ・福祉体験学習（3年）の実施。 ・職場体験（2年）の実施。
- ・思春期講話（3年）の実施。 ・地域学習（1年）の実施。
- ・ネットモラル講話（全学年）の実施。
- ・セーブメディアの推進。
- ・運動会・合唱祭（全校）の実施。
- ・縦割り活動を推進し、交流の中で自分の考えを表現できる力を育てていく。

実施するために何が必要か 指導体制の充実、家庭、地域との連携・協働

- ・アクティブラーニング型授業の研究の推進と校外での各種研修への積極的な参加体制の構築。
- ・Findアクティブラーナーを活用した校内授業研究会の取り組み。
- ・デジタル教科書などを含むICT機器を使った指導力の向上。
- ・教科横断型学習カリキュラムの構築→地域学習、福祉体験、職場体験、関西方面の修学旅行、テーマに基づいてのディスカッション
- ・温海スタンダードに示された9年間の育ちを意識した教育課程の編成。小中相互授業研究会の実施。中学校教諭による出前授業の実施。
- ・教師がより授業に専念できる環境づくりの構築。→「学校における働き方改革」の推進。
- ・地域との連携を図るための組織体制づくり

安心・安全を守る

- ・防災講話の実施。
- ・地域と連携した地震・津波避難訓練の実施。
- ・定期的な避難訓練の実施。

開かれた学校づくり

- ・入学説明会の実施。
- ・地域の方を対象とした学校公開日の設定。
- ・地域の観光資源などを活用した体験的学習の推進。